

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道506号 <small>おろく</small> 小禄道路		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけん なはしかがみず</small> 沖縄県那覇市鏡水 至： <small>おきなわけんとみぐすくしなかし</small> 沖縄県豊見城市名嘉地				延長	5.7km
事業概要	那覇空港自動車道「小禄道路」は、那覇市鏡水から豊見城市名嘉地に至る延長約5.7kmの高規格幹線道路である。小禄道路は、国道331号小禄地区の交通容量を確保し、那覇中心部を経由する通過交通の削減により交通渋滞を緩和するとともに、沖縄本島全域から那覇空港への定時性・速達性の確保に寄与する道路である。					
H23年度事業化	H21年度都市計画決定		H25年度用地着手		H26年度工事着手	
全体事業費	約620億円		事業進捗率	5%	供用済延長	0km
計画交通量	36,800台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.9 (残事業) 2.2	(残事業)/(事業全体) 442/519億円 事業費：421/499億円 維持管理費：21/21億円	(残事業)/(事業全体) 986/986億円 走行時間短縮便益：714/714億円 走行経費減少便益：151/151億円 交通事故減少便益：121/121億円	平成27年		
感度分析の結果	(事業全体) 交通量変動 B/C = 1.8~2.0 (交通量±10%) (残事業) B/C = 2.1~2.4 (交通量±10%) 事業費変動 B/C = 1.8~2.1 (事業費±10%) B/C = 2.0~2.5 (事業費±10%) 事業期間変動 B/C = 1.8~1.9 (事業期間±20%) B/C = 2.1~2.3 (事業期間±20%)					
事業の効果等	①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる。 ・並行する国道331号の混雑度の低減が見込まれる。 ②物流効率化の支援 ・糸満市から那覇空港への所要時間の短縮が見込まれる。 ③個性ある地域の形成 ・那覇空港から豊見城・名嘉地 I C までの所要時間の短縮、定時性の向上が期待される。 ④地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑤生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。					
関係する地方公共団体等の意見	【沖縄県知事】 小禄道路は、那覇空港自動車道の一部区間を構成し、沖縄自動車道と一体となって本島北部及び中南部と那覇空港間の定時性、高速性を確保するとともに、都市部の交通混雑の緩和と沿道環境の改善を図る重要な幹線道路と認識している。 当該道路の整備により、本島中南部・北部の各拠点の産業、観光及び地域振興プロジェクトの寄与し、物流の効率化及び交通混雑の緩和が期待できることから、早期の全線開通が必要である。 このため、対応方針(原案)のとおり事業継続に同意する。					
事業評価監視委員会の意見	対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・小禄道路に接続する那覇西道路が平成23年8月に暫定4車線、豊見城・糸満道路が平成24年3月に暫定2車線、豊見城東道路が平成27年3月に完成4車線にて開通。
- ・小禄道路と並行する国道331号では、慢性的な渋滞が発生。
- ・小禄道路周辺で、物流企業、観光関連企業が進出するなど都市化が進展。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成23年度に事業化、用地進捗率2%、事業進捗率5%（平成27年3月末時点）。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・早期供用に向け事業を推進中。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針（原案）

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。